

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

「子どもは未来の地域の担い手」

子どもは地域の宝です

元 東山田中学校長
現 東山田中学校学校運営協議会副会長

平野 真理子

本日の流れ

1. コミュニティスクールとしての東山田中学校

2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

3. 校長として大事にしていたこと

→学校(校長・教職員・生徒)は、思いを本音で話す

4. 運営協議会委員として大事にしていること

→子どもたちのために何ができるか本気で考える

5. コミュニティスクールが目指すべき方向性とは

→課題を捉えながら考える

まとめ: 社会のために 地域のために 活躍する人を育てる

東山田中学校 地域とともに歩んだ19年間 ～学校運営協議会の役割～

- 平成17年、神奈川県初のコミュニティスクールとして開校
- 日常的な地域の方々の学びの場としてのコミュニティハウスが併設
- 最大の特徴は、コミュニティハウスと学校との間に壁がないこと
⇒行き来が自由 ⇒**地域と学校を結ぶ懸け橋としての機能をもつ**
- まずは学校と地域との信頼関係づくりから
⇒ 月1回学校運営協議会を開催し、何ができるか、何をすべきか、熟議の連続

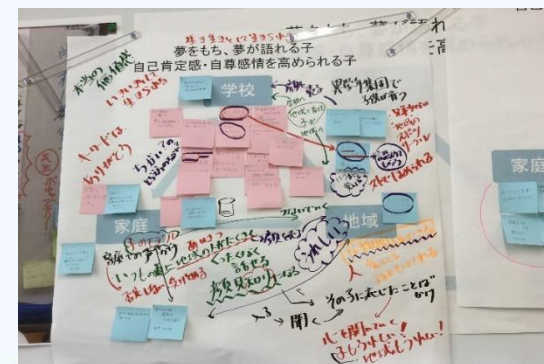


〈試行錯誤で始まった地域との連携〉

テーマに基づいて、教職員と熟議

(キャリア教育・防災教育・特別支援教育・部活動 等々)

最大の応援団に

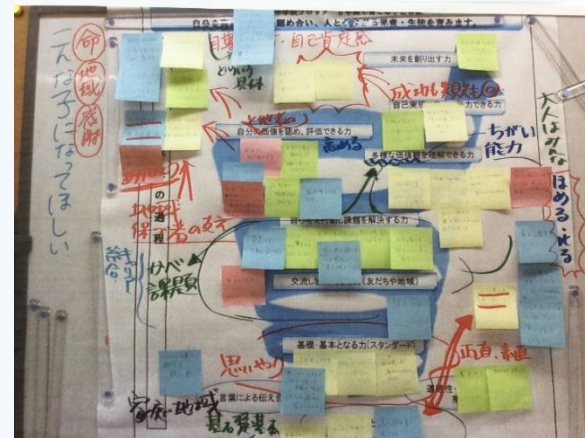
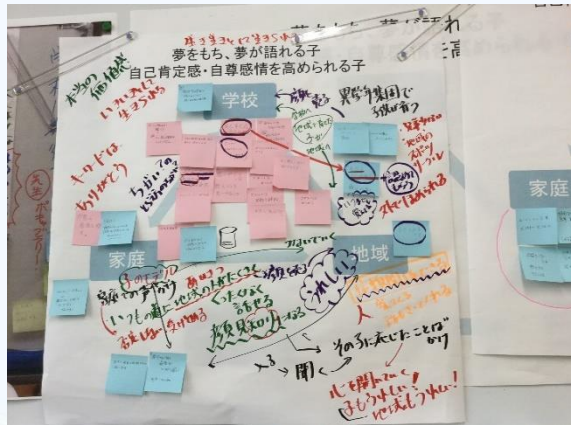


ともに学ぶ集団

学校運営協議会の活動例

- 毎年夏に実施する視察で共に勉強会（防災の在り方・小中一貫教育・CSの在り方 等々）
- 学校から出される課題に対して、常に地域として何ができるか、という視点で考えてくれる
（例）キャリア教育1年生から3年生までの流れのアイデア ⇒地域学校協働本部が支援
教職員との懇談会でのつぶやき ⇒学校運営協議会委員が地域へ働きかけ
- 9年間で育てる「目指す子どもの姿」をワークショップで**熟議**（小中一貫ブロック）

審議機関



目指す子どもの姿
「ワークショップ」の様子

東山田中学校 地域とともに歩んだ19年間 ～地域学校協働本部の役割～

教師のつぶやきから始まった ボランティアのコーディネート

- 卒業証書の筆耕をしてくれる方の紹介
- キャリア教育の始まり
- 小学校への学習支援

⇒ 平成21年 中学校区(3小・1中)の支援活動のために立ち上げた

「学校支援地域本部(やまたろう本部)」で、さらに充実



まちのマスコットキャラクター
「やまたろう」

地域学校協働本部の活動例

地域と学校を結び、様々なアイデアで学校の願いを実現するための**実働部隊**

①コミュニティカレンダーの作成と配布（情報を共有するツール）

②ホームページの作成・運営（学校と地域をつなぐホームページ）

内容：カレンダー、学校、地域、ファンド等多くの地域情報満載

③ボランティアのコーディネート

・キャリア教育の補助（連絡・調整・資料整理等）

・授業支援（困り感のある児童の支援、調理実習支援、赤ちゃん体験補助など）

・ボランティア研修、企画運営、ボランティアハンドブックの作成

④日曜日や放課後の学習会

⑤ワクワク防災キャンプの企画・運営

⑥「まちのたから」を学びに生かす9年間 まちのたからMAP の作成 等々



多様な活動

コーディネート機能

考えてみましょう

- **学校にとって地域って何？いったい誰のこと？**

⇒地域は子どもたちの生活の場であり、体験的・探求的な学習の場

⇒学区やその周辺に住んでいる、または働いているすべての方々

- **地域にとって学校とはどんな存在？**

⇒地域や社会の未来を担う人材を育成するところ

⇒地域社会の中核となる存在…切っても切り離せない関係。

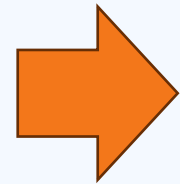
地域と学校は
パートナー

2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

つまり

子どもは地域の宝

地域と学校は パートナー
地域と学校は WIN・WINの関係



理想の姿

子どもたちの「生きる力の育成」は学校だけでできるものではない。

地域社会や様々な専門知識をもった数多くの大人とのつながりを通して、未来を生き抜くための幅広い知識や能力を育むことができる。

2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

地域で活動する生徒たち

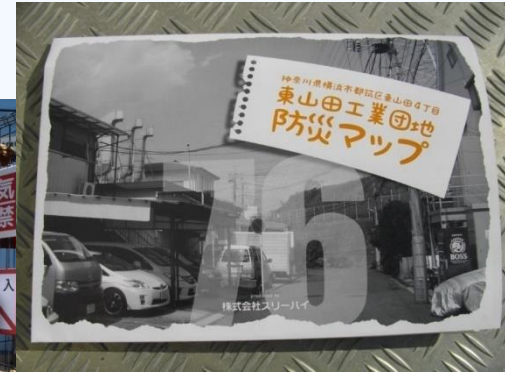
～地域とともに生徒を育てる～

○ボランティア活動

- ・ 地域のお祭りの手伝い（準備、片付け、売り子）
- ・ 企業がすすめる防災マップ作りに参加
- ・ コミュニティハウス主催の行事の手伝い
- ・ 地域防災訓練への参加
- ・ 地域清掃活動への参加

○部活動生徒の活躍の場として

- ・ ダンス部、吹奏楽部が地域の行事で発表 等々



地域の企業と協力して防災マップを作成



2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

地域と学校が一体となって児童生徒を育てる意義 ～生徒にとっての魅力～

教師以外の大人と話をしたり、聞いたりする機会が増える

このことから

- ①落ち着いた学校生活の維持
- ②より豊かで広がりのある学びの確保
- ③コミュニケーション能力の向上
 - ・子どもの学びの成果を発表する
機会の増加と質の向上



大きな教育的効果が期待

職場体験中



地域の方と
面接練習中



2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

地域と学校が協働して児童・生徒を育てる意義

～教師＝学校にとっての魅力～

経験の浅い教員でも、学校を異動して地域のことがまだ理解できていなくても、頼れる組織がそこにある！

たくさんのかかわりで、多くの知恵とパワーが投入



意図的・意欲的な活動が展開される

様々な人と共に活動することで教職員の見識が広がる



教職員の意識改革



教職員だけでなく地域の人たちと共に学び深化する教師集団が生まれる

学校の活性化 +

教職員の
負担軽減



地域コーディネーターと学年教職員との
キャリア教育打合せ

2. 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる意義とは

地域と学校が協働して児童・生徒を育てる意義 ～地域・保護者にとっての魅力～

多くの人が参画することによって、学校への関心が高まる
(保護者も地域の一員⇒地域の中で育てられているという安心感)



知識や経験を生かして貢献しているという満足感

学校を中心とするコミュニティの構築

災害の時こそ生きる
大人も子どもも
顔の見える関係作り

活動を通して仲間が増え、生きがいとなる

(顔の見える関係づくり＝安心・安全なまちづくり)



子どもたちとのふれあいを通して元気をもらう

子どもの声が聞こえる

地域創生

元気なまちづくりにつながる

3. 校長として大事にしていたこと → 思いを本音で話すこと

(例)校長の思いを形に

～「防災教育」をもう一つの柱にしたい～

- ・ 学校運営協議会での視察・熟議 を経て少しずつ形に

⇒ 幼保小中同時避難訓練と引き取り訓練の実施

⇒ 「地域とともにある学校フォーラム」

学校・地域・生徒・保護者総勢150名以上で防災を考える

⇒ 三年間を通じた新しい防災教育の実践

- ・ 地域主催のやまたろう防災(わくわく防災キャンプ)

- ・ 地域の企業と学校をつなぐ

地域の工業団地内の防災マップ作り



3. 校長として大事にしていたこと → 思いを本音で話すこと

・生徒会本部役員との懇談

学校生活で困っていること(校則改正の後押し・委員会活動の地域補助)

・部活動顧問との懇談

時間外労働の負担感 → できる範囲でやればよいという考え方を後押し

・教職員との懇談

技能吏員や事務職との懇談を通して、コロナ禍での大変さを理解

特別支援教育に関する熟議から、教育支援ボランティアや「やまたろうクラブ」や「やまたろう」クラブの立ち上げを実現

4. 運営協議会委員として大事にしていること → 子供たちのために何ができるか本気で考える

教育課題の解決のために

～地域学校協働本部主催の学習支援～

ボランティアの熱意で生まれた土曜日や放課後の教育支援

やまたろうクラブ

2019 SINCE 2015

九九がもっととくいになりたいなあ

漢字がちょっとにがて...

たし算・ひき算がとくいになるよ!

やまたろうクラブにいきましょう!

対象：山田・北山田・東山田小学校 1～3 年生
日時：第 2・4 土曜日 10:00～11:30
ただし 5/25、12/28 はお休みです
(日にちが変更になる場合があります)
場所：東山田中学校コミュニティハウス
参加費：無料
持ち物：筆記用具、教えてもらいたいプリントや宿題があれば持ってきて下さい

やまたろうJクラブ

放課後の学びの場

Jクラブ 2019 スタート!

対象：東山田中学校に在籍する生徒
場所：東山田中学校コミュニティハウス研修室
開室日時：毎週金曜日 18:00～20:00
(8/16 はお盆休みです。金曜祝日の場合は休み)
持ち物：筆記用具、英語、数学の教科書・ノート
宿題、プリント等
実施内容：英語・数学を中心に自学自習し、
分からないところを指導員に質問する形式
指導員：研修を受けたコーディネーター、大学生、
教員 OB 等のボランティア
参加費：無料

「自分で考え
学ぶ」を
一緒にやろう!

参加者は事前登録が必要です。
申込用紙は「やまたろう本部」にあります。
※注意 参加する生徒は、一度帰宅してから来室してください。

YAMATARO Jr. CLUB
SINCE 2016

学校運営協議会の抱える課題

- 協議会委員の人選 .. 立場ではなく人を選ぶ
→ **子どもたちのために**何ができるかを考える人たちの集まり
- 開催時間と回数 .. 教職員だけでなく委員の方々もみんな働いている
→ 協議の内容によって開催時間を設定(互いに歩み寄る)
→ 必要に応じた回数の設定
- 協議会審議内容のあり方 .. 審議というより熟議を中心に組み立てる
→ より多くの人の参加を(教職員・児童生徒)
- 本音で話し合うためには .. 思いや困り感を語る場の設定

今、私が学校運営協議会委員として心がけていること

- できるだけ多くの方々とふれあい、その方々の思い(本音)を聞きだす
- 共感・激励・アドバイス・具体的支援(キャリア教育ボラ)を通して、支えとなる

小学生が中学生に
中学生が高校生・大学生・社会人となって
地域のために若い力を役立ててくれる



還元

社会のために 地域のために 活躍する人を育てる



おわりに

子どもは未来の地域の担い手
子どもは地域の宝です

子どもたちのために、
学校も地域も 一緒に考えて実践してゆきましょう。